



今月は、秦理事(市民参画部会長)の巻頭文です!
次号は、榛木理事(人材育成部会長)を予定しています、お楽しみに!

お品書き
【その壱】CODEレターVOL.13
【その弐】プロジェクトNEWS
【その参】CODEセミナー案内

以上



Letter

2004.2.25 VOL .13

CODE海外災害援助市民センター発行
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-576-3693
e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>
郵便振替 : 00930-0-330579

市民とCODE そして生協

理事 秦 正雄
(コープこうべ常勤理事)

生活協同組合コープこうべは1921年に社会運動家賀川豊彦の指導のもとに創立され、今日では組合員数147万人となり県下一円に生協の活動と事業が広がっている。創立時の苦勞、戦争ではすべての施設が廃墟となった時代、そして阪神・淡路大震災を經過し、今日も市民の中に「生協さん」「コープさん」として存在している。83年の歴史の大きさと市民が育ててきた生協への期待は日常的な市民の気持ちにあるのではないかと考えている。

生協の社会的な取り組みの一つに「コープこうべ災害緊急支援基金」があります。震災以降、生協は国内外の自然災害に対して、救援募金を中心に被災地を支援する活動に積極的に取り組んでいます。金銭的支援は、個々の災害発生後、店舗を中心に組合員に募金を募る方法と、災害発生時にじんそくに対応するために積み立てた「コープこうべ災害緊急支援基金」(組合員による基金運営委員会が管理)から寄贈する方法があります。ともに、組合員の善意が確実に届けられ、活用されるルートを確保したうえで寄贈することを大切にしています。震災を忘れないために毎年1月17日を中心に店舗や協同購入センターで災害緊急募金の集中募金を呼びかけています。

昨年の12月26日に発生したイラン南東部地震についても、翌日の27日には災害緊急支援基金運営委員会の皆さんで基金から200万円の拠出を決定。組合員の皆さんからは募金や物資の問い合わせや、店舗にはイラン市民の皆さんへ心温まる募金が発的に寄せられました。組合員のボランティア活動ではサロンの茶菓子代金は募金に、午後には店舗で募金の呼びかけに早変わりです。また、地震直後に開かれた毎年恒例のコープこうべ第九コンサートでは、参加組合員さんから「愛と平和と自由を歌い上げるのが第九、この場でぜひイラン地

震への支援を呼びかけて欲しい」との声があがりました。その声に2,000人の満席の客席から賛同の大きな拍手が起こり、10分程度で275,000円が寄せられました。

災害緊急支援基金運営委員会は組合員さんを中心に運営され、国外の支援情報はCODEやユニセフなどと連携して学習や交流を深めてきました。また、運営委員長柳瀬理事は2001年に発生したインド西部地震後の現地視察に同行し、運営委員の皆さんや活動をささえている組合員さんに報告しています。CODEに参画されている団体や皆さんに生協の理解を得るために地域推進講座では「市民の募金が国際協力」で募金報告をしています。アフガニスタンでの、ぶどうのオーナー制度の発送は、その延長線上の協同組合法式であり大変嬉しく思っています。

市民は平和で心豊かに安心な暮らしを願っています。そんな期待に応え組合員さんが協同して力を合わせ、よりよい暮らしを創っていくのが生協です。震災で学んだ「助け合い」「いたわり」「地域コミュニティー」など人間として大切なことをどのように暮らしの中で持続していくのか、生協は組合員さんとともに考え実践していかねばなりません。その一つが災害緊急基金創設の思いであり組合員の期待なのです。CODEの存在がより市民に身近になり、生協の活動を通して広がっていくことが大切だと願っています。そこに生協の存在価値があると思っています。



記念講演会第1回報告

2月14日(土) JICA兵庫国際センターにて、「国際的な人道援助のあり方」と題したNPO法人格取得記念講演会が開催されました。第1回目は、芹田代表を講師に「国際的な人道活動とCODE」をテーマに約3時間講演行いました。

前半は「人道」という言葉の意味についてや人道援助の目的など全体的な話をされ、地域全体の文化を踏まえ、自尊心を考慮するしていくことも大切と述べていました。後半は、国際社会の果たす役割やCODEの役割について話をしました。CODEの



講演をする芹田代表

援助活動については、経験を原点に世界に輪を広げ、被災者と被災者のつながりを第一にしていることを述べました。

講演の後の質疑応答では、CODEが展開する支援プログラムについてまで、質問がおよび活発な意見交換がなされ、有意義な3時間となりました。

また、この講演録については、後日出版予定となっております。

3月28日(日曜日)の第3回目は、室崎副代表を講師に「予防防災とCODEの役割」と題して講演していただきます。また、定員に余裕がございます。皆様多数のご参加をお待ち申し上げます。

(以上 文責：事務局仲江川徹)

シリーズ第4回

CODEに携わる人々

シリーズ「CODEに携わる人々」第4回目は、CODE発足前から事務局が置かれております被災地NGO協働センターでボランティアとして関わってくださっている川喜多由利子さんです。

昨年翻訳ボランティアを始めてから、英語と日本語の両方に頭を抱えながら訳した記事も何時の間にか15件を超えた。その間世界に漂う不穏な空気のもとでも、懸命に日々の暮らしを紡いでいる人々が遠い国にもいることをCODEは私に思い起こさせてくれていた。

私が今こうしたボランティアをしているのは、きっと高校までの学生生活の間に蒔かれた種によるものだと思う。それは今の自分に何が出来るのかという自らへの問いかけとなったが、その時は答えをみつけられないまま、その問いは心の底で眠ってしまった。それが9年前の大震災によって揺り起こされたのである。とは言っても、KOBEの震災では自宅マンション全壊ということで、まずはその再建に追われて新しい行動を起こすところまでいかなかった。しかしその後のトルコや台湾の震災の被災地での色々な人達の様子に、もうじつとしていられなくなってCODEの生まれる前の被災地NGO協働センターへ出かけていったのだった。その時、以前の問いを

改めて考えてみて出てきたのは「今自分が現地へ行けなくても、そこで辛い思いをしている人々に心を寄せ、支援に出かけていく人達をここで支えることなら出来る。」という答えだった。それ以来、少しずつ事務所のお手伝いをさせて頂いてきた。

英語をすっかり忘れてしまわないうちに、身の程も知らずに翻訳の方にも手を上げてしまいましたが、CODEを通して、広い世界と主婦業中心の私の生活とが繋がっていると感じられる時、なんだか嬉しい気持ちになります。心優しいスタッフのみんなの力を借りながら、これからも微力ながらお役に立てればと思っています。

これまでの活動記録1/1～2/17

- 1/ 1 イラン派遣(～8日)
- 1/10 イラン地震報告・事務局斉藤(FMわいわい・兵庫県)
- 1/14 講演・村井理事(大東文化大学・埼玉県)
- 1/15 イラン地震支援アピール・村井理事
(AM神戸・FMわいわい・兵庫県)
- 1/15 イラン報告・村井理事(湊島小学校・兵庫県)
- 1/16 イラン報告・事務局斉藤(津門小学校・兵庫県)
- 1/17 コープこうべイラン地震支援金贈呈式
- 1/22 イラン報告・事務局斉藤(天理教たすけあいネット・奈良県)
- 1/23 イラン報告・事務局斉藤(NVNAD・兵庫県)
- 1/27 アフガニスタン報告・事務局斉藤(小百合児童館・兵庫県)
イラン南東部地震合同報告会・村井理事(JICA・兵庫県)
- 1/28 松蔭高等学校事務局訪問ボランティア体験受入
- 1/30 アフガニスタン報告・村井理事(堺女性大学・大阪府)
- 2/ 4 天理大学国際協力論受講生事務局訪問
- 2/ 7 UNCRD国際シンポジウムイラン地震アピール(兵庫県)
- 2/14 中級編セミナー開催(兵庫県)
コープこうべ平和学習会「アフガニスタンのぶどうの木」(兵庫県)
ぼたんの会イラン地震支援贈呈式
- 2/17 第2回理事会開催
UNCRDイラン支援関係者ミーティング(兵庫県)
人と防災未来センターイランバム地震情報交換会(兵庫県)

ありがとうございます。1/1～2/17

会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

一般寄付

岡部達彦(大阪府),魚留信子(兵庫県),成毛典子,本多事務所(以上東京都)

新規会員

・賛助会員

個人:有馬忠広(京都府),中谷勇一,杉田文夫,岩国正次(以上兵庫県)

編集・発行 CODE海外災害援助市民センター
〒652-0801 兵庫県神戸市兵庫区中道通2丁目1番10号
TEL: 078-578-7744 FAX: 078-576-3693
e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>
郵便振替: 00930-0-330579

事務局では、不要になったハガキや書き損じハガキを集めています。これらは、郵便局で手数料を払えば、官製ハガキに交換していただけます。業務の中で使用する郵便代金の削減の一環に使用させていただきます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

CODE プロジェクトニュース

CODE海外災害援助市民センター
 〒 652-0801 神戸市兵庫区中道通 2-1-10
 Tel: 078-578-7744 Fax: 078-576-3693
 e-mail: info@code-jp.org
 URL: http://www.code-jp.org/

イラン南東部地震支援

前回のプロジェクトニュースでお伝えしましたイラン南東部地震についての続報をお伝えします。

国連人道問題調整事務所（UNOCHA）によるイラン地震 OCHA 現状報告書 14（2月9日付）では、これまでの死者が約 43,200 人と報告されています。被災地となったケルマン州バム市、そして市の周辺村の人口は 125,000 人とされています。人口の 3 分の 1 の人命が一瞬にして奪われたと考えると、この地震がいかに大規模でひどいものであったかがわかります。

CODE では、2月26日から第2次現地派遣を行います。今回の視察では、前回の調査で把握仕切れなかった点や、最も重要となるこれからの連携先として現地の NGO の状況を調査し、今後の支援内容を話し合いたいと思います。



CODE の支援の方向性として上げられるのは 3 つです。

耐震住宅支援 - 今後の復興には欠かすことのできない課題として、「今度こそ簡単に壊れたりしない家」を建てる必要があります。これまでの海外の救援活動の中でもイランの建物はトルコ、インド、アフガニスタンの建物と類似しています。インドでは住民主導の耐震性住宅再建のワークショップなどを開いてきました。これまでの経験を活かしながら現地の人々と共に考えていける復興を目指しますが、今回の調査では今後の復興についてイランの国としてどのような政策が取られるのかなど、全体的な視点もしっかりと見てこなければなりません。

地域経済再建 - 前回の報告でお伝えしましたように、被災地バムはナツメヤシの生産でとても有名な農業都市でした。今回の地震でナツメヤシの木には大きな被害はなかったものの、生命線ともいえるカナート（地下水路）が破壊、もしくは水脈の変化があったために、いくつか水が流れなくなっているカナートがあります。実際に前回、私たちは 2 本のカナートを見に行きましたが、地震後流れなくなったということでした。この時期に水をやれないのは、今後の経済活動に大きな打撃を与えることになりかねません。実際にいくつかのナツメヤシが枯れ始めているとの情報もあります。私たちは住民の基本となる生活の糧が確保できないことには、この地での新たな再建は難しいと考え、この地域経済を再建させるということは重要な課題だと考えています。

また、経済活動のひとつとして世界遺産候補であったアルゲバムの修復も重要な観光産業を担う一つとして考えられます。ここも地震によって大きな被害を受けましたが、前回の視察時には見ることはできなかったため、実際の様子はわかりませんが、この地が 2000 年のの古都と言われる由縁でもあるアルゲバムを今後地域の再建のために活かすことができないかなどの視察したいと思います。

教育支援 - どのような活動になるかまだ具体的に決定はしていませんが、今回の地震によって多くの子どもたちが被害となり、また両親を失った子どもたちも多く、今後子どもの支援が何か必要だと考えています。ただ単に学校を建設したり、孤児院を建設したりするだけではなく、地域の人々の中で子どもたちが安心できる場を作れないかと考えています。

以上に明記したことは、すべて CODE 単独ですということではなく、今回の地震被害支援についてはできるだけ多くの団体と協働しながら活動したいと考えています。実際に地震直後の募金開始より、日本災害救援ネットワーク（NVNAD）や人と防災未来センター、プレーンヒューマンティの皆様と連携を取りながら活動を行っています。その後他機関とも情報共有を行いながら、今後の支援のあり方を決定したいと思います。

また同時に阪神大震災の被災地 KOBE においても即座に市民の方による募金活動などが多く展開されてい

ます。兵庫県下、日本国内においても支援の輪が次々と広がっています。全国各地から募金を CODE へ託して頂きました皆さまのお名前をすべてプロジェクトニュースで挙げることは紙面上難しいためホームページ上でご紹介させていただいています。何卒ご了承ください。

アフガニスタン支援 <2003年7月~>

前回 12 月に訪問してから、現地より水資金についての使用方法の相談がありました。その相談とは、前回訪れた時、一番の問題は水ということがわかり、春になるまでに各村にとりあえず一つずつ井戸を掘り、春の苗植えに備えようということになりました。私たちの帰国後、どこに井戸を掘るかということを実地のシューラ（地元評議会）を中心に集まり話し合いが数回にわたって行われました。1 つ目の案は山側の畑に近いところに掘る。2 つ目は家に近いところに掘る。灌漑用として使用するなら断然 1 つ目のほうがいいように思いますが、山が近いことで、地盤が固く井戸を掘ってもできるかどうか分からないというリスクがありました。それに比べて 2 つ目の家に近いところは、地盤も比較的軟らかいので、井戸も掘りやすく、水もでるだろうということでした。しかし、畑からは遠くなるので灌漑には使いにくいという問題がありました。そこで、考え出された案が井戸ではなくて、カレーズ（地下水路）の清掃を行うということでした。カレーズの清掃をすれば、飲み水としても使用できるし、灌漑用としても使用できます。このようなことを考えているのだけれどもどうだろうというメールが来ました。元々カレーズはこの地域には伝統的に飲み水や灌漑に使用されてきたものでしたが、長年の紛争と干ばつによってこの地域にある 17 本のカレーズの内、4 本しか現在は使用できない状態にありました。私たちは村の人たちが集まって、話し合いを行い、そして一番いい方法がカレーズの清掃ということになったのなら問題はないのではないかと返事をしました。そして、2 月 20 日にいよいよ清掃を開始し始めたとの報告がありました。それぞれの村で 1 本ずつ、4 人の作業者とリーダーとなる人が 1 人で合計 5 人が現在作業にあっているとのことです。いよいよアフガニスタンのカレーズがよみがえりつつあるのです。ぶどう基金が現地の人々にとって少しずつ役に立っていると実感できます。次回アフガニスタンへはイランへの視察を終え、そのままアフガニスタンに入る予定です。1 週間ほどの滞在になりますが、現地の人々がいよいよ春の苗植えに向けて動き出している様子が見ることができるとは思わないかと思うとうれしくなります。

CODEホームページワールドボイス・リニューアル！

今年度の行政と NPO の協働事業として兵庫県と行ってきました CODE ワールドボイスがついにリニューアルをしました。ワールドボイスは国連人道問題調整事務所（UNOCHA）より出されていますリリーフウェブを情報源として一部を日本語翻訳をしたものを皆様にウェブ上で発信をしています。ニュースにはでなくなってしまった災害からの復興や世界中で起こっている人道問題に関する出来事など様々なニュースを 10 名のボランティアさんによって翻訳されています。現在は、アフガニスタンの復興やイランの地震後のニュースなどを中心に記事が掲載されています。ホームページデザインは西宮都市生活協同組合さんをお願いをし、作成していただきました。ぜひ一度ご覧頂けましたら幸いです。<<http://www.code-jp.org/wv/>>

募金について

募金にご協力して頂ける方は、下記の郵便振替口座にて、通信欄に「イラン地震支援」「アフガニスタン支援」とそれぞれ明記してください。なお募金全体の 15 % を上限として事務局運営・管理費に充当させていただきます。

口座番号:00930 - 0 - 330579

加入者名: CODE

CODE の活動は、様々な方のご支援に支えられて行われています。すべての皆様にご報告を直接させていただきたいのですが、時間的な制限もあり、ホームページやメーリングリストなどを通して広くご報告させていただいております。ご理解のほどよろしくお願い致します。メーリングリストへの参加をご希望の方は、ご遠慮なく事務局までお問い合わせ下さい。当センターのホームページ<<http://www.code-jp.org/>>にも同様のものをアップしております。

（以上 文責：事務局 斉藤容子）